

て居つたやうな低能な、勞働者のみがえらいのぢやといふやうな事になつて居る。是は非常な不公平なことであつて、一方を虐げることになるのであります。それ故に虐殺に次ぐに虐殺を以てす、彼等が今天下を維持して居るのは暴力である、決して彼等の理想が善きために天下を有つて居るのではない。

それ故に先づ正しい意味の社會構成律から考へて行かなければならぬ。それには勅語にも示しになつて居る「博愛衆に及ぼし」或は「公益を廣め」「世務を開き」「國憲を重じ」「國法に遵ひ」といふ風に、秩序を守つて行かなければならぬ。さうして改善すべき事は順序を逐うて進んで行かなければならぬ、革命等といふ事を西洋でやるが、非常な間違つた事である。恰も人間にしたならば「此奴一ツ焼き直せ」といつて脳味噌を取換へる様なものぢや、「この親父少し癩癩親父だから取換へてやれ」といつて、頭を割つて内部の脳髓を取出して捨て、しまふと同じで、佛蘭西革命が抑々今日の禍ひの端を開いたと言つてよい、今日は經濟革命を叫んで居るが、終には平和

の文明を現ふ所の極端なる思想に逆行するのである。

大體我國の思想は、精神生活を重んじ、この勅語にも示しになつて居る通りに、皇祖皇宗の遺訓を奉じ、上御一人より下萬民に至るまで、拳々服膺し來つたのである。「勞働者の道徳である」とか「何々階級の道徳である」とか言つて、隅へ寄つて勝手な理想を附けて歐り合をするやうな事は、勅語の聖旨ではない、すべて社會を構成するには眞實に全般の幸福を理想し、さうしてそれは最も公平無私なる態度に依つて進み行かなければならぬ。それには極端なる平等はやはり私であります、人間は智能なり努力なりに優劣があるから、如何なる社會を造つても直ぐそこに差等を生ずる。今の露西亞がどうやつて居るかといへば、第一に勞働者に生活權を與へる、第二が何、第三が何、第四が何、といふやうに階級を設けて居る、今までは國家の功勞者に就て階級を設けたのを、今度は生活權の上に階級を設けて居る、その他いろ／＼の事に直ぐ不平等が起つて來るのである。それは自分の心でも波立つのであるから、いくら平等